

摂食障害に関わる皆様

摂食障害の支援政策に関する署名活動（2種類）へのご協力のお願い

一般社団法人愛媛県摂食障害支援機構
（マゼンタリボン運動本部）
代表 鈴木こころ

拝啓

平素は、摂食障害の理解促進、当事者や家族、市民による支え合い活動にご理解、ご支援賜り、誠にありがとうございます。

私どもは、愛媛県で活動している一般社団法人愛媛県摂食障害支援機構と申します。17年前に「リボンの会」という自助グループをスタートさせ、現在では法人化して、就労支援施設の運営をしております。

その活動の一環として、摂食障害の理解をすすめる「マゼンタリボン運動」という活動も行っており、全国に摂食障害の認知啓発、理解促進をすすめる取り組みをしている当事者団体です。

さてこの度、このような私どもから皆様に、摂食障害の支援政策に関する署名活動にお力添え頂きたく、お願い申し上げました。その経緯について、まずご説明申し上げます。

2020年3月、公明党内において、摂食障害に関するプロジェクトチームが設置されました。これは、2019年11月に私どもが同党内、摂食障害に関する要望書（摂食障害の理解促進に厚生労働省等の協力を仰ぎたい）を提出したことがきっかけでした。

ですが、このプロジェクトチームの設置に関しては、医師を中心とした団体である（一社）日本摂食障害協会と公明党の間でのみやり取りが行われておりました。また、プロジェクトチームが設置されたという情報も、当事者団体の私どもには知らされていなかったという悲しい出来事もありました。

それに加え、私たちが知らない間に、ひそやかに形ができていっている今のタイミングで、協会からは「この取り組みは協会が厚生労働省等に対して行ってきたロビー活動の成果であり、（当事者団体である）愛媛県摂食障害支援機構とは関係がない」との発言があり、協会の意向として、私たち当事者団体を排除して物事を進めようとしていることも明白になりました。

改革には、医師の意見も必要です。しかし、摂食障害の当事者や家族が本当に困っていることは、全国で活動する当事者や家族でなければ伝えていくことができないと、私どもでは考えています。そして、摂食障害のことを深くご存知ではない政治家の方々に、こうした当事者や家族の声を聴いていただきたいと願っています。

また、これまでの摂食障害に関する様々な物事が、医療関係者によって進められており、当事者や家族の声がきちんと反映されていない歴史を鑑みると、今回も同じ流れになってしまうことを危惧しております。

つきましては、一人でも多くの摂食障害にこころある方々のお力をお借りし、全国の当事者団体等が今回のプロジェクトチームや、国の政策検討の場に参画し、いま困っている当事者やご家族が本当に助かるようになるための流れを生み出そうと考えております。

そのために、次の2つの署名活動を、有志によりはじめることといたしました。

- ① 当事者団体の発言が、今回のきっかけであると公明党及び協会が認識し、これまでの経緯を整理し、今後何かの際には、必ず当事者の声を大切にいただくための嘆願
- ② プロジェクトチームや政策等の検討の際には、当事者団体が医師等と同等の権利、立場で発言できるようにするための嘆願

今回、①をなくして、②が実現できない状況となっています。

どうぞ2枚にご署名にご協力くださいますよう、心よりお願い申し上げます。

敬具

実施期間：令和2年6月30日までにご郵送ください。

【送り先】

〒790-0012 愛媛県松山市湊町7-6-10 マリンコミセン前ビル2F
一般社団法人 愛媛県摂食障害支援機構 まで